

## 中小都市の読解とそのおもな手がかり、まとめ

### 中小都市の読解のてがかりと実例

#### 1 飛騨古川（岐阜県）

##### 歴史的背景

- ・1589年 築城
- ・1615年 元和の一国一城令によって城を破棄
- ・1986年 日本ナショナル・トラストによる町並み調査  
「そうばくずし」、都市軸としての瀬戸川、飛騨の匠、「雲」169種 355件
- ・1989年 飛騨の匠文化館
- ・1989-1991年 瀬戸川周辺整備（ふるさとづくり特別対策事業）
- ・1992年 飛騨古川まつり会館
- ・1992年 5階建てホテル建設問題浮上
- ・1993年 「飛騨古川タウントレイル」
- ・1996年 飛騨古川ふるさと景観条例  
3つの柱と：18のキーワード  
まちづくりの心：わがまち古川・古川やんちゃ・古川祭・そうば・飛騨の匠・こうと  
まち：山と田園に囲まれたまち・水と共に生きるまち・歴史の薫るまち・城下町のなごり・わがま  
ちの玄関・新しいまち・新しい玄関口  
建物：三寺・屋台蔵・うなぎの寝床・意匠・雪またじ
- ・2002年 朝の連続テレビ小説「さくら」の舞台となる
- ・2004年 神岡町、宮川村、河合村と合併して飛騨市となる
- ・2016年 映画「君の名は。」の舞台となる

##### 都市の個性

- ・高山とふたごの城下町、古川に対抗意識あり
- ・城と中心寺院とを結ぶ都市軸があり、その川側に町人地、山側に武家地
- ・都市軸としての瀬戸川（古川）と地形の高低さによる土地利用の差異（高山）
- ・まつりの文化：古川まつり、高山まつり、山車と山車蔵、屋台組のコミュニティ
- ・町家の間取りとハレとケの使い方
- ・水の文化

#### 補遺 佐賀と比較してみた柳川

- ・水郷都市の立地：なぜ両都市とも山際や街道沿い、河口部ではなく、水郷の中央部に立地しているのか
- ・水とのかかわりを手掛かりにする
- ・安易に「水郷」というだけでわかった気にならないように
- ・灌漑、貯水、排水、給水など、多様な水の機能を考える
- ・そうした都市の近代化を考える

##### 地形条件

- ・標高4mに立地：有明海の潮汐限界
- ・北山と前海（佐賀平野）
- ・豊かであるが、不足する水：保水力に乏しい山、干拓により増える農地
- ・降ると大水、照ると干ばつ
- ・天井川から灌漑用水確保
- ・多様な水路：条里によるクリーク・中世兆円の不規則な水路・集落の防衛的な環濠・江戸時代の導水路兼ため池のクリーク・江湖（えご、干潟の濤から生まれた水路）
- ・城下町の給水と排水
- ・塩水との闘い
- ・舟運

## 読解の手がかりの例

- ・地形
  - ・都市形成史
  - ・土地利用
  - ・街路パターン
  - ・水系
  - ・移住・定住のパターン
  - ・コミュニティの構成とその変化
  - ・まつりと屋台組
  - ・固有の地名や場所の呼び名
  - ・地元の言い伝えや伝説、方言
  - ・信仰の構造
  - ・生きてきた人々の歴史、様々な保存運動の歴史
- 
- ・計画都市の読み込み
  - ・都市の立地
  - ・広域の道路パターン
  - ・主要施設の配置
  - ・周辺都市との比較対照

## まとめ

- ・都市は多様であり、その多様さには根拠がある
  - ・しかし、他の国と比べるとひとつの枠の中にある
  - ・たとえば、日本の都市には祖型と呼べるものがあることが多い
  - ・たとえば、自然発生的な都市や集落は小規模のものに多く、大規模な都市は計画都市がほとんどである
- 
- ・都市の規模に応じた都市理解の方法論がありえる
  - ・それは都市分析の精度の違いによる
- 
- ・都市はそれぞれに依拠すべき地形や生み出すべき秩序、解決すべき課題を有している
  - ・都市はこうした課題に向き合い、長い年月をかけて造りつづけられてきた作品である
  - ・その意味で、都市は立体となった書物である
  - ・都市の読み取り方は無限に存在するので、都市を十全に読み取ることは不可能ではあるが、それにそれぞれの専門から近づくことはできる
- 
- ・そこには都市にかかわってきた者の多様な意図や都市生活者の想いが込められている
  - ・複雑に絡み合ったその意図を読み解くことによって、都市自体が持つ空間の構想力が体得できる
  - ・だから都市は面白い
  - ・現在に生きるわたしたちは、都市の永い営みのうち、現在という一瞬を担う一員であり、都市を将来へ引き継ぐ責務を有している
- 
- ・都市を計画するとは、こうした都市の（失敗も含めた）来歴を知り、現在の課題を理解し、将来に向けてそこにわたしたちのささやかな貢献を付け加える作業であり、都市保全はその一部である
- 
- ・都市をよく知ることは都市にかかわるものの出発点である
  - ・制度も各種計画も、分析も、ここから出発しなければならない